

今年も目指そう 1等比率90%以上!!

稲作管理情報 第2号

平成28年4月2日  
いなば農業技術者協議会  
○事務局【JAいなば営農生産課】  
小矢部市赤倉97 TEL67-8000  
【西部支店】67-8200 【東部支店】67-8300  
【南部支店】61-8900 【福岡支店】64-8600  
○高岡農林振興センター 26-8480

- ①計画的な育苗作業と健苗育成で、収量・品質の向上に努める。
- ②育苗日数20日間であっさり苗に仕上げ、5月15日(日)に田植えを行う。

○育苗計画【コシヒカリ:5/15 田植えでの育苗計画】(中山間地域は、JAいなば営農指導員にご相談ください。)

4月													5月																			
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
浸種(7~10日間程度) ・浸種水温は10~15℃を確保 ・浸種積算温度は100℃以上を確保								タフブロック 種子消毒			催芽		籾干し	播種	出芽	育苗(日数は播種日を含めて20日間を目安) 特に、換気を徹底し、ハウス内の温度が25℃以上の場合、速やかに換気!! 夜間も換気を行う!!													田植			
													搬出(緑化)			(硬化)																

育苗準備

- 1. 器材の消毒 苗箱はイチバン液剤(500倍)で消毒しましょう(しっかりと乾かしてから使用しましょう)
- 2. 種籾の準備
- 3. 比重選

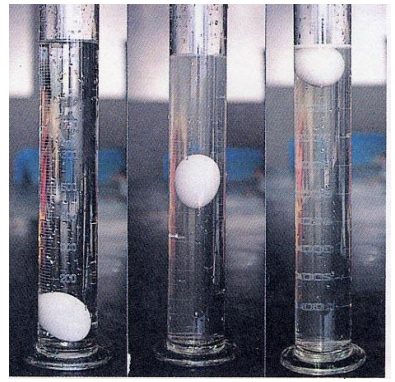
品種	1箱当り播種量		準備乾籾量※ (kg/10a)
	乾籾量(g)	出芽籾重(g)	
てんたかく			
コシヒカリ	120	150	3.2
てんこもり			
五百万石	140	175	3.7
新大正糯	120	150	3.2

※準備乾籾量(kg/10a)は10aあたり苗箱22枚として算出

※硫安による比重液の調整 (水10ℓあたり)

	比重	硫安の量
うるち	1.13	2.5kg
もち、酒米	1.08	1.5kg

※新鮮生卵での比重液比較  
比重1.00 1.08 1.13



比重選で沈んだ種籾は、発芽障害を起こさないよう十分に水洗いを行い、硫安をよく洗い流してください。

育苗手順

1. 浸種

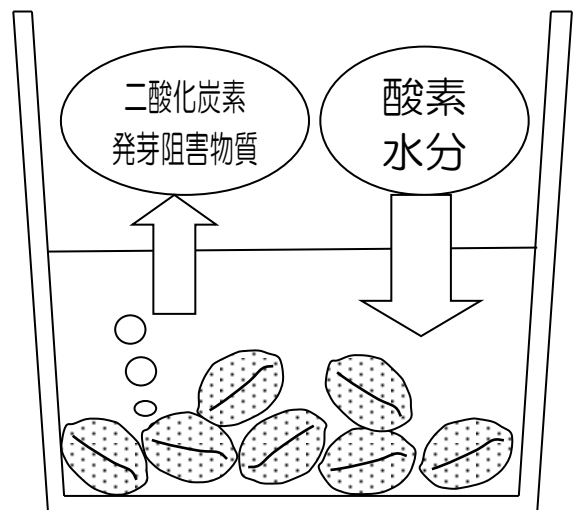
浸種初日は必ず水温10~15℃を保ち、種籾が露出しないように、種籾10kgに対し水20ℓで浸種

- ・最初の3日間は水温の保温(10~15℃)に努め、その後は2日おきに水の入れ替えを行いましょう。
- ・その際に種籾ネットを良く揺すり、上下逆にしましょう。(種籾への吸水と酸素供給)

※浸種の目安

浸種水温	日数	積算温度目標
15℃	7日間程度	100℃以上
10℃	10日間程度	

- ・気温が低く水温が10℃以下になる場合は、さし湯や加温により必ず10℃以上に確保し、保温に努めましょう。
- ・気温が高くなると、水温も高くなりやすいので、芽の伸び過ぎに注意してください。
- ・温度計を設置して、浸種水温をこまめに確認してください。(特に早生品種は、催芽率を高めるため、浸種は十分行いましょう。)



2. 種子消毒

①タフブロックの場合(蒸気式育苗器で催芽)

◎浸種期間中の最後の2日間で、タフブロックの処理を行いましょう。

※乾籾量と薬液量(200倍液)

乾籾量	水	タフブロック
10kg	20ℓ	100g
50kg	100ℓ	500g

注意事項!!

- ・乾籾は、消毒済種子を使用しないでください。(タフブロックの効果が失われるため)
- ・薬液量は、種籾量の2倍の量を準備しましょう。
- ・タフブロックへの浸漬時の水温は、12~15℃を保ってください。
- ・タフブロックへの浸漬時間は、24~48時間です。
- ・タフブロック液に種籾袋を浸けるときは、袋を揺すって、十分に袋の中まで薬液が浸透するようにしましょう。
- ・消毒後、種籾袋をゆっくりとあげる(タフブロック液を落とさない)
- ・浸漬後はそのまま陰干しして播種に備えましょう。(水洗い及び天日干しは不可。)
- ※冷水による芽止めも控えましょう。

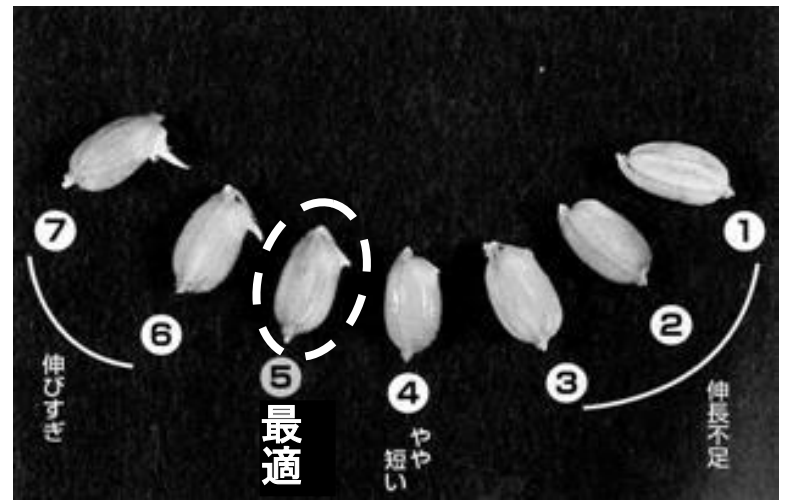
②温湯消毒について

27年産の「てんたかく」等の早生品種やもち品種は、割れ籾の発生が多い等、発芽率の低下の恐れがあるので、温湯消毒は行わないでください。(タフブロックや化学農薬を使用してください)

\*裏面につづく

### 3. 催芽

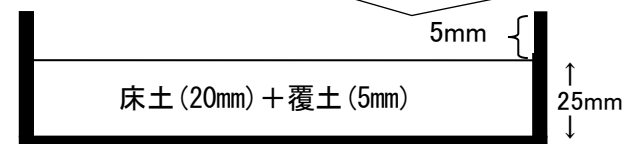
- ・催芽は、原則育苗器(蒸気式)を使用しましょう。  
(「ハトムネ催芽機」は、細菌病拡大を防ぐため、使用は控えましょう。)
- ・催芽の温度は30~32℃としましょう。
- ・催芽中は種籾袋を度々反転させ、温度ムラを無くし、芽の揃いを整えましょう。
- ・芽長は、1~2mmの「ハト胸」状態になっていることを確認しましょう。



### 4. 播種

- ・芽出し籾は、握っても手に付かない程度にまで陰干ししましょう。
- ・品種、催芽状況、種子の乾き具合により種子の落下量が異なるので、**作業を始める前に試し播き**を行い、播種量を調整、確認しましょう。  
(コシヒカリの種籾は、浸種後の状態で150g/箱)
- ・覆土は、箱当り1kg(5mmの厚さ)を目安に的確に行いましょう。(転び苗等の防止)
- ・かん水量は、播種までに床土表面の水が引き、覆土後に覆土表面に水がにじみ出る程度としましょう。
- ・**タフブロックによる種子消毒を行った場合は、ダコレートを使用しないでください。**

覆土を入れる際は、育苗箱の上面よりやや少なめとして、灌水時に培土が十分に吸水できるようにしましょう。

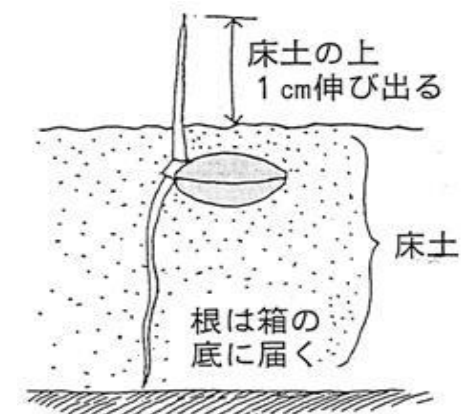


#### 苗箱施薬剤(エパーゴルワイド箱粒剤)の使用について

- ・播種同時処理でも、移植当日に育苗箱に施薬しても、どちらも可能です。
- ・播種同時処理する場合は、「床土→灌水→播種→エパーゴルワイド→覆土」の順番です。
- ・極端な低温での育苗では、生育抑制を生じるおそれがありますので、温度管理に注意してください。
- ・移植当日に育苗箱に施薬する場合は、均一に施薬するようにしてください。
- ・**エパーゴルワイドの量は50g/箱、育苗箱20箱で1袋(1kg)です。しっかり適量を施薬しましょう!!**

### 5. 出芽

- ・出芽温度は30℃を厳守しましょう。  
(29℃以下だと出芽が遅れ芽揃いが悪く、30℃以上になると細菌病等が出やすくなります)
- ・途中、こまめに出芽状況を確認しましょう。
- ・**(棚上段の出芽状況で判断せず、棚中段の出芽状況(目標1cm)を確認しましょう)**



### 6. 搬出作業

- ・出芽完了苗は、原則早朝に搬出しましょう。
- ・搬出後は覆土が落ち着く程度のかん水を基本としますが、晴天等で気温が高まる場合は十分なかん水を行いましょう。
- ・種籾が露出している場合は、覆土を加えるとともに、搬出後は緑化のために寒冷紗等により2~3日の間遮光に努めてください。
- ・**ハウス内の温度が高い(25℃を超える)場合は、搬出直後でも苗がやけないように換気をしてください。**

### 7. 育苗管理

#### ①緑化期

- ・昼は、**25℃を超えないように**、夜は10℃以下にならないように注意ください。

※25℃を超えると、

**ヤケ苗や細菌性病害の発生が助長されます。**

- ・10℃以下になると、生育停滞やムレ苗の発生につながるため、ストーブ等による加温をしてください。
- ・苗が緑化した段階で、速やかに被覆資材をはずします。

#### ②硬化期

- ・ハウス内の温度を、**昼は25℃以下、夜は10℃以上**に保ってください。
- ・硬化期のかん水は、1日1~2回とし、早朝に箱の底まで十分に水が浸透するよう、たっぷりかけてください。
- ・**田植えの1週間前頃からは夜もハウスを開け、外気に慣らし、硬くがっちりした苗にしましょう!!**

育苗ハウス内には、必ず温度計を苗の高さに設置してください。

苗のステージ		出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数		3日	2~3日	13~15日
温度	昼	30℃	25℃以下	
	夜	30℃	10℃以上	

### 8. 基肥量について

- 基肥量は、土壌条件や前作等を考慮した「施肥基準」を遵守してください。
- ※具体的な施肥量は、「平成28年度 冬期座談会資料」の16~17ページの施肥設計例を参考としてください。